

ぐるめ散歩

ラーメン

ぼっけもん

様々な食材を使い手間をかけて作ったオリジナルスープと独自のステーキチャーシューが人気のラーメン専門店。

メニューは人気のにんにくラーメンのほか、白、黒、赤の3種が選べる油そば、しょうゆ、とんこつ、みそラーメンなど9種類が基本でトッピングにより多くのバリエーションがある。にんにくラーメンはスープの辛さを6段階から選べる。ボリュームたっぷりの鉄板バターライスも人気。熱いうちに食べられるよう注文を受けてから調理して提供する。

ラーメンの命とも言えるスープは、歯舞



スタッフの井浪さん(左)と森さん

☎3430-6143 東和泉1-21-9ロータス狛江1階 営業=午前11時~午後3時/6時~12時(日曜日は10時まで)



スープとチャーシューが人気市のコンテストで入賞2回

平成25年度の狛江ラーメン逸品コンテストで「白い油そば」が優秀作品賞、28年度の狛江ヌードル逸品コンテストで「狛江の塩ラーメン」が優秀作品賞を受賞した。

社長の森武文さんと友人の市村一郎さんが12年にオープン。カウンターとテーブル合わせて18席の店内は若い人だけでなく、女性や高齢者も多い。

スタッフたちは「見かけよりさっぱりしているので、おなかいっぱい食べられると好評です」と話している。

おすすめMENU

- ①ぼっけもんにんにくラーメン¥1,200(辛さにより価格変動) / ②チャーシュー油そば ¥1,070(中盛) / ラーメン¥750 / とんこつラーメン¥750 / みそラーメン¥850 / チャーシューメン¥1,050 / 汁なしにんにくラーメン¥930(辛さにより価格変動) / ぼっけもんラーメン¥1,100 / ③鉄板バターライス¥380(麺と同時購入は¥280)(税込)



子どもの横断を見守る颯駿号

警視庁騎馬隊が出勤交通安全PRにひと役

秋の全国交通安全運動期間中の9月28日(日)、警視庁騎馬隊が多摩川保育園南側交差点に出勤、横断歩道を渡る人たちを見守った。

交通安全運動のキャンペーンの一環として調布警察署が実施した「横断歩道の交通ルールの徹底とマナーアップ」にひと役買ったもの。騎馬隊で最古参の颯駿号

が隊員を乗せて午前10時から約1時間交差点脇に立ち、親子連れや高齢者など約100人が横断歩道を渡るのを見守った。

訪れた人たちは「本物の馬を近くで見るとは初めて。大きくてきれい」「おとなしくて格好いい」などと大喜び。スマートフォンで何枚も写真を撮ったり、警察官に記念写真を撮ってもらっていた。狛江市道路交差点によると「今春に続いて2回目の実施で、調布警察署と連携して市民に楽しみながら交通ルールを知ってもらうために実施しました」

と話していた。

8つの福祉施設出店上手いもの市が人気

市内の8カ所の福祉施設で作られた食品や雑貨を販売する「上手いもの市」(狛江市・上手いもの市実行委員会主催、小田急電鉄株式会社協力)が10月19日(日)と20日(月)に狛江駅改札前催事スペースで開かれ、商品が早々に売り切れる店も出るなど人気を集めた。

このイベントは障がい者が通う福祉作業所や就労支援施設、訓練室などで作られる様々な商品を知ってもらい、販売を通して市民と触れ合うことで障がい者への理解を深めようと令和元年に初めて開かれ好評だった。その後は年2回開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨春は中止され、秋は開催したが、今春も中止となった。久しぶりに開催することができ、出店した各施設の利用者たちは「たくさんの方が来て、品物を買ってもらったり、話ができるとうれしかった」と喜んでいました。

上手いもの市には多くの人々が来場、売上金は2日間で約22万円にのぼり、ほとんどの施設で品物が売り切れたという。

上手いもの市には多くの人々が来場、売上金は2日間で約22万円にのぼり、ほとんどの施設で品物が売り切れたという。



買い物客でにぎわう上手いもの市

Start & Challenge 幼児から高齢者に向け絵本の読み聞かせ

幼児から高齢者に向け絵本の読み聞かせを行っている「りぷりん」と「狛江かわせみ」(土屋嘉子代表)は、狛江市と東京都健康長寿医療センター研究所が平成29年度から実施している絵本読み聞かせ講座の3期目の受講生が修了後の令和2年1月に設立した。都内や神奈川県内の読み聞かせグループのNPO法人りぷりんとに所属し、技術の向上や絵本の情報共有を図っている。

会員は市内在住の65歳以上の22人で、毎月1回の定例会では、読み聞かせに行くメンバーを選ぶほか、滑舌体操なども行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で活動を自粛する期間もあったが、感染予防対策をして「野川のえんがわこまち」や「こまえくぼ1234」で活動し、「あまね訪問看護ステーション」でも来年1月から活動を再開する予定。読み聞かせは3~4人が、テーマを決めて選んだ本などを読み、幼児がいる時は手遊びなども取り入れている。



読み聞かせの勉強会

同会では市民公益活動事業補助金(スタート補助金)を受け、講座の講師だった絵本読み聞かせインストラクター熊谷裕紀子さんを招いて会員を対象にした勉強会を7月から4回開く。勉強会は、参加者がストーリー性のある7~8分程度の絵本を読んで、本の持ち方やページのめくり方、声の調子などについて、熊谷さんから実地で指導を受ける。9月には西河原公民館などで2回行われ、各9人が参加した。参加者たちは「本の選び方や人に聴かせる技術など、読み聞かせの奥の深さを実感しました」などと話していた。問い合わせ☎090-6195-3473 FAX3489-6350細谷さん。

元気スクールグループが介護予防の冊子を発行

高齢者の介護予防体操を行っている「元気スクールグループ」(山口正忠代表)が、市民公益活動事業補助金(チャレンジ補助金)を受け、啓発テキスト用の冊子「元気スクール 10年間の道標」を発行した。

同会は、平成22年に市がこまえ正吉苑で開いた介護予防事業「歩行改善教室 いきいき元気スクール」の修了生が学んだことを継続しようと23年に発足した「野川元気スクール」が母体。27年の介護制度の改正に合わせて、野川元気スクールのメンバー数人が「介護予防・生活支援サービス事業通所型サービスB」に対応した、週1回程度10人以上が集まって体力測定や運動を行う「狛江元気スクール」をスタートさせた。その後、市内の高齢者施設を拠点に系列のスクールを設け、現在は5カ所で、60代から90代の登録会員120人が所属している。



冊子を手にする山口さん

冊子はA4判本文40ページで、通所型サービスBの内容や市内の先事例の紹介、健康寿命を伸ばすコツなどを表やグラフを交えて紹介している。冊子は500部を発行、スクールの会員のほか、高齢者施設や包括支援センターの職員、スクールに関心のある人20人に配布する。申し込み・問い合わせは山口さん(☎・FAX3480-2382)。発足時のメンバーなどの協力を得ながら2年がかりでまとめた山口さんは「スクールを10年間、手探りで運営してきたノウハウを多くの人に役立ててもらいたい。高齢者が歩いていける範囲のコンビニのように通所型サービスBのスクールができるといいです」と話している。

音楽知識を楽しく学ぶ初の「おんまちラボ」

音楽についての様々な知識を楽しく学んでもらおうと、音楽の街-狛江エコルマ企画委員会による初の音楽講座「おんまちラボ」が10月16日(日)に中央公民館で開催された。

この日は、クラリネット奏者の木津陽介さんから5人の企画委員が講師や助手、研究員を務めた。生活の一部になっている音楽をテーマに、CMやスーパーマーケットなどで流れる曲のほか、家電製品などで使われているメロディーなども取り上げ、実際に演奏を

交えながらエピソードなどをユーモアたっぷりに紹介した。防災行政無線と狛江市の歌「水と緑のまち」の関係などの話もあり、参加者たちは熱心に聴き入っていた。

委員たちは講座のために3カ月がかりで内容を検討し、関係者に取材するなど入念に準備を行った。木津さんらは「コロナ禍で打ち合わせやリハーサルもリモートで行うなど、苦勞



つなげよう 音楽の架け橋

しましたが、音楽の多様な楽しみを知るきっかけになれば」と話していた。

第2回は1月15日(日)午後2時から「スポーツと音楽」(仮)をテーマに中央公民館で開催する。参加費は500円で定員は先着30人。申し込みは11月22日(日)午前9時から。申し込み・問い合わせは☎3430-4106 一般財団法人狛江市文化振興事業団。